HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

日本版 Parenting Stress Index (PSI) の信頼性・妥当性の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本小児保健協会 公開日: 2013-08-27 キーワード (Ja): 育児ストレス, 母親, 信頼性, 妥当性 キーワード (En): 作成者: 奈良間, 美保, 兼松, 百合子, 荒木, 暁子, 丸, 光恵, 中村, 伸枝, 武田, 淳子, 白畑, 範子, 工藤, 美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/413

研　究

日本版 Parenting Stress Index (PSI) の信頼性・妥当性の検討

奈良間美保[1)]，兼松百合子[2)]，荒木　暁子[2)]，丸　光恵[3)]
中村　伸枝[3)]，武田　淳子[4)]，白畑　範子[4)]，工藤　美子[5)]

〔論文要旨〕

本研究は，米国において育児ストレスを測定するために開発された Parenting Stress Index (PSI) の日本版を作成し，日本の乳幼児の母親を対象に，その信頼性と妥当性を検討することを目的とした。原版 PSI を翻訳，内容の妥当性を検討した質問紙を用いて，乳幼児健診に来所中の母親に調査を行った。1109名の回答より，日本版 PSI の構成概念妥当性を検討した結果，原版とは異なる因子構造が認められ，最終的に78項目15下位尺度として使用することが妥当であると判断した。78項目の日本版 PSI は，質問紙全体と下位尺度の内的整合性に優れ，検査・再検査法による安定性が確認された。

Key words：育児ストレス，母親，信頼性，妥当性

Ⅰ．はじめに

核家族・少子化社会を背景に，現代の日本の母親の育児に伴うストレスは増大あるいは変容を遂げていると考えられる。日本では育児ストレスに関連する研究として，川井ら[1)]が母親の育児不安の概念を明確にすることを試み，不安・抑鬱，育児の困難感から構成される29項目の質問紙を開発し，母親の育児不安には子どもの年齢による特徴があることを見いだしている[2)]。また，親の育児ストレスと養育の質との関連性に関する報告[3)]などもあるが，育児ストレスを子どもの特性や親の心理社会的側面から多面的に把握する方法は，まだ十分に開発されていないと言える。米国の心理学者 Abidin RR (1983)[4)]は，育児に伴う親のストレスの特徴を明らかにするために，Parenting Stress Index (以下 PSI) を開発した。その後，PSI を用いた研究で，親のストレスが親のパーソナリティーやソーシャルサポート，あるいは子どもの気質的な特徴と関連性があること[5,6)]が報告されている。また，PSI は病児の親のストレスに関する研究に広く活用され，慢性疾患の子どもの母親は，健康な子どもの母親に比較して，育児ストレスが高いことなども見出されている[7,8)]。

本研究では，PSI の日本版を作成し，日本の乳幼児の母親に対する調査より，質問紙の信頼性および妥当性を検討することを目的とした。母親の育児ストレスの特徴を明らかにすることは，母親と子どもの健康増進，さらには健康問題をもつ子どもの母親のストレスマネージメントにおいて，極めて重要な意義をもつと考える。

Ⅱ．研究方法

1．原版 PSI の翻訳

PSI は子どもの気質的特徴や，親のパーソナ

Validity and Reliability of the Japanese Version of the Parenting Stress Index　〔0041〕
Miho NARAMA, Yuriko KANEMATSU, Akiko ARAKI, Mitsue MARU,
Nobue NAKAMURA, Junko TAKEDA, Noriko SHIRAHATA, Yoshiko KUDO
受付 98. 8. 5
採用 99. 7.15
1)　浜松医科大学医学部看護学科　2)　岩手県立大学看護学部　3)　千葉大学看護学部
4)　宮城県立大学看護学部　5)　兵庫県立看護大学　職域：看護婦
別刷請求先：奈良間美保　浜松医科大学医学部看護学科　〒431-3192 静岡県浜松市半田町3600番地
Tel/Fax 053-435-2827

リティー，親の社会的因子等から多面的に育児ストレスを測定する101項目の質問紙で，米国の1歳から12歳までの子どもをもつ親を対象に，信頼性と妥当性が検証され[9]，研究や臨床で広く活用されている。子どもの特徴に関わるストレスは47項目で，子どもの散漫性／多動性(Distractibility/Hyperactivity)，親を喜ばせる度合い（Reinforces Parent)，子どもの機嫌(Mood)，子どもの受容度（Acceptability)，子どもの適応性（Adaptability)，子どもが困らせる度合い（Demandingness）の6下位尺度で構成されている。親自身に関わるストレスは，54項目で，親としての能力についての感じ方(Sense of Competence)，子どもへの愛着(Attachment)，親役割による規制(Restrictions of Role)，親の抑鬱（Depression)，配偶者との関係（Relationship with Spouse)，社会的孤立（Social Isolation)，親の健康(Parent Health）の7下位尺度から構成されている。回答は，各項目4または5段階の自己評価法で，得点が高いことはストレスが高いことを意味している。

PSIの翻訳と使用の許可を文献9の著者から得た後，3年以上の米国の居住経験をもつ2名を含む数名の看護学研究者が質問紙の翻訳を行い，小児看護学研究者により表現の妥当性を検討した。その後，乳幼児の母親10名を対象にプレテストを行い，解釈しにくい表現に修正を加えた。

2. 対象および調査方法

平成7年4月から11月に関東地区の1県と東北地区の2県において，乳幼児健診に来所中の母親を対象に，日本版PSIと家族構成などに関する質問紙調査を行った。研究の主旨を説明した後，同意が得られた母親に質問紙と返信用の封筒を手渡し，郵送により回収した。回収率は45.2%で，最終的に1109名の有効回答が得られた。母親の年齢は19歳から46歳の範囲，平均30.2歳（標準偏差4.1）であった。主婦は853名(76.9%)，就労者は256名（23.1%）であった。回答の対象となった子どもは生後3か月から47か月の範囲で，平均20.8か月（標準偏差14.1）であった。さらに，検査・再検査法による質問紙の安定性の検討と併存妥当性の確認を行うために，平成9年10月に千葉県在住の乳幼児の母親40名に対する調査を行った。平成9年度の1回目の調査は日本版PSIと乳幼児の母親の育児不安を測定する29項目（川井ら，1994）[1]を用い，その1か月後に日本版PSIについて再度調査を行った。母親の年齢は27歳から41歳の範囲，平均33.2歳（標準偏差3.7）であった。回答の対象となった子どもは生後4か月から44か月の範囲で，平均25.3か月（標準偏差11.6）であった。

3. 分析方法

因子分析によって尺度の構成概念妥当性を検討した。また，育児不安に関する質問紙との相関より併存妥当性を検討した。尺度の信頼性は，Cronbachのα係数から内的整合性を，検査・再検査法により安定性をそれぞれ検討した。分析には統計ソフトSPSSを用いた。

Ⅲ. 結　　果

1. 構成概念妥当性の検討

日本版PSIの因子構造を知るために，子どもの特徴に関わるストレスと親自身に関わるストレスについて，それぞれ因子分析を行った。固有値1およびその減少率を基準に因子数を規定し，主因子法によるバリマックス回転を行い，因子負荷量0.3以上の項目を採択した。その結果，子どもの特徴に関わるストレスでは12因子が抽出され，累積寄与率は45.6%，同様に親自身に関わるストレスは12因子，累積寄与率は44.6%で，共通性が0.3未満の項目が多数認められた。そのうち，「あなたのお子さんは，泣き始めるといつも何分位泣き続けますか」，「私の子どもの食事や睡眠の時間は，思ったよりずっと決まりにくかった」など，回答しにくいと判断される項目や，「お母様の最終学歴は？」など，日本の母親の育児ストレスを必ずしも反映しないと判断される項目については，研究者間の合意により排除し，最終的に78項目について再度分析を行った。

子どもの特徴に関わるストレスでは7因子が抽出され，累積寄与率は44.6%であった（**表1**）。第一因子は『親を喜ばせる反応が少ない』とした。原版の下位尺度『親を喜ばせる度合い』，『子

表1 子どもの特徴に関わるストレス項目の因子負荷量

原版番号	原版下位尺度	項目	第一因子	第二因子	第三因子	第四因子	第五因子	第六因子	第七因子	共通性
13	C2	私の子どもは，思っていたよりずっと笑わない。	.77935	.11482	.09703	−.03045	.11681	.01942	.00583	.64497
24	C4	私の子どもは，他の子どものように笑わない。	.68768	.13473	.26759	−.16852	.15224	.11218	.03046	.62774
18	C3	私の子どもは，遊んでいる時にあまり笑わない。	.68048	.13672	.17332	−.12845	.14557	.06150	.03096	.55421
14	C2	この子のために何かする時，この子にあまり喜ばれていないと感じる。	.65413	.14371	.11374	.08545	.03439	.14707	.06340	.49561
12	C2	この子は私が嫌いで，そばにいたがらないと時々感じる。	.56005	.11341	.02548	.12900	−.20431	.13253	.13659	.42178
10	C2	私の子どもは，私が喜ぶことはほとんどしない。	.48607	.10861	.25038	.15267	−.03701	.09099	.14829	.36570
27	C4	私の子どもは，抱かれたりさわられたりするのがさほど好きでない。	.48821	.06632	.16518	.07842	−.05467	.16902	.17641	.33886
11	C2	この子は私が好きで，私のそばにいたがっていると感じることが多い。	.34386	−.05661	−.02964	.00400	−.41758	.08120	.12666	.31935
17	C3	私の子どもは，他の子どもよりずっと泣きやすく，むずがりやすい。	.12404	.71603	.18359	.01359	.18502	.09200	.10262	.61520
16	C3	子どもが泣いたりむずがったりするのは a．思ったよりすっと少ない b．思ったより少ない c．思ったのとほとんど同じ d．思ったよりずっと多い e．ほとんどいつも	.03601	.68481	.06172	.07290	.14664	.11477	.03083	.51501
20	C3	私の子どもは，とても不機嫌で泣きやすいと思う	.26111	.63090	.23358	−.09684	.15510	.06572	.10245	.56902
40	C5	泣いている時，私の子どもは a．なだめやすい b．思ったよりなだめにくい c．とてもなだめにくい d．何をしてもだめだ	.10747	.46468	−.01286	.18177	.09109	.19995	.05477	.31196
19	C3	私の子どもは，目覚める時に大体機嫌が悪い。	.14670	.41544	.11200	−.01916	.09889	.05767	−.02467	.22074
32	C5	私の子どもは何かいやなことがあると，非常に強く反応する。	−.00403	.37669	.04982	.19675	.25294	.16676	.24921	.33699
44	C6	子どもがすることで，私を本当にイライラさせるようなことがある。	.08941	.33565	.10181	.30293	.05980	.28065	−.02812	.30781
23	C4	私の子どもは，他の子どものように物覚えが早くない。	.23145	.10973	.56941	−.08443	.05932	.18693	.20499	.47744
26	C4	私の子どもは，私が期待していたほどのことができない。	.31712	.20045	.53366	−.00040	.05041	.30280	.10676	.53116
22	C4	私の子どもは覚えたことを忘れてしまい，今までよりも幼い子どものようにふるまうことがある。	.25172	.15205	.51265	−.05002	.09209	.08108	.16145	.39292
25	C4	子どもがすることで，私がとても気になることがいくつかある。	.17198	.24445	.34602	.15016	.05231	.30338	.09361	.33515
21	C4	私の子どもは思っていたのとは少し違い，私はそのことが時々気になる。	.27348	.34092	.34180	.04512	.02831	.25074	.11939	.38781
2	C1	私の子どもは元気すぎて私がつかれる。	.01176	.17728	.12149	.71375	.06222	.04159	.01388	.56156
7	C1	私の子どもは，思ったよりずっと活発だ。	−.08455	−.04170	−.02883	.65067	−.04676	−.05189	−.01839	.43831
6	C1	私の子どもは，思ったよりずっと歩き回る。	.05132	.04620	−.01910	.60304	.01859	.09216	−.13878	.39689
3	C1	私の子どもは，気が散りやすく，混乱しやすい。	.13060	.18207	.47065	.44216	.15462	.03336	.09994	.50223
4	C1	私の子どもは，他の子どもと比べて集中力がない。	.15468	.09879	.55159	.38288	.12190	.06580	.08254	.51054
49	C6	私の子どもは，いつも私につきまとって離れない。	.03112	.20700	.08745	.06474	.72780	.13447	.12582	.61927
50	C6	私の子どもは，他の子どもより私への要求が強い。	.02168	.24310	.14397	.09987	.63195	.15450	.14967	.53590
33	C5	私の子どもを人にあずけるのはいつもむずかしい。	.04252	.27713	.00474	.03583	.43510	.07704	.23217	.32907
39	C5	私の子どもは，はじめての人に会うと落ち着かない。	.12558	.16218	.04294	−.08019	.36141	.19361	.25618	.28408
31	C5	ふつうの子どもと比べて，私の子どもは計画の変更や，家のまわりの変化に慣れにくい。	.17998	.15839	.15708	−.12919	.31774	.21627	.25322	.31070
47	C6	私の子どもは，思った以上に問題であるということがわかった。	.24889	.21274	.19705	.08300	.09417	.67197	.07194	.61850
46	C6	私の子どもは年齢がすすみ自立するに従い，問題が多くなるのではないかと不安に思う。	.12231	.17192	.27873	.10615	.12228	.49693	.10622	.40665
45	C6	私の子どもにはこれまでに思ったより多くの健康上の問題がおきた。	.09557	.09918	.03405	−.04392	.08302	.42762	−.02812	.21260
48	C6	私の子どもは，他の子どもより手がかかるようだ。	.09794	.47563	.15923	.21231	.21559	.41314	.10022	.53345
37	C5	私の子どもはいつも，新しいおもちゃで遊び始めるまでしばらくかかる。	.18462	.01724	.24565	−.10117	.08467	.01588	.70467	.60894
38	C5	私の子どもは，新しい物に慣れるのに時間がかかり，すんなりいかない。	.16461	.05488	.19584	−.19663	.22367	.10187	.69666	.65287
35	C5	私の子どもは，大きな音や強い光に過敏に反応しやすい。	.07410	.19365	.05779	.14393	.21338	−.07123	.33973	.23307
34	C5	私の子どもは，小さなことにも腹をたてやすい。	.14027	.39455	.20237	.19308	.26767	.19014	.28428	.44220
		固有値	8.69387	2.65871	2.06439	1.24828	0.90111	0.73581	0.66409	
		寄与率	22.9	7.0	5.4	3.3	2.4	1.9	1.7	
		累積寄与率	22.9	29.9	35.3	38.6	41.0	42.9	44.6	

C1：子どもの散漫性／多動性　C2：親を喜ばせる度合い　C3：子どもの機嫌
C4：子どもの受容度　C5：子どもの適応性　C6：子どもが困らせる度合い

どもの機嫌』，『子どもの受容度』のうち，「私の子どもは思っていたよりずっと笑わない」，「この子のために何かする時，この子にあまり喜ばれていないと感じる」など親を喜ばせる反応の少なさに注目した項目で構成されていた。第二因子は『子どもの機嫌の悪さ』とした。原版の下位尺度『子どもの機嫌』，『子どもの適応性』，『子どもが困らせる度合い』のうち，「私の子どもは，他の子どもよりずっと泣きやすく，むずがりやすい」，「私の子どもは，とても不機嫌で泣きやすいと思う」など，子どもが不機嫌になりやすい度合いを表す項目で構成されていた。第三因子は『子どもが期待通りにいかない』とした。原版の『子どもの受容度』の下位尺度のうち，「私の子どもは，他の子どものように物覚えが早くない」，「私の子どもは，私が期待していたほどのことができない」など，子どもの発達や能力が母親の期待通りではないと感じる内容で構成されていた。第四因子は『子どもの気が散りやすい／多動』とした。「私の子どもは元気すぎて私が疲れる」，「私の子どもは，思ったよりずっと活発だ」など子どもの散漫性や多動性を表す項目で，いずれも原版の下位尺度『子どもの散漫性／多動性』に含まれていた。第五因子は『親につきまとう／人に慣れにくい』とした。原版の『子どもの適応性』，『子どもが困らせる度合い』の下位尺度のうち，「私の子どもは，いつも私につきまとって離れない」，「私の子どもを人にあずけるのはいつもむずかしい」など，親への固執性や人に対する適応性の悪さを表す項目であった。第六因子は『子どもに問題を感じること』とした。原版の『子どもが困らせる度合い』の下位尺度のうち，「私の子どもは，思った以上に問題であるということがわかった」，「私の子どもは，年齢がすすみ自立するに従い，問題が多くなるのではないかと不安に思う」など子どもに問題を感じることを表す項目で構成されていた。第七因子は『刺激に過敏に反応する／ものに慣れにくい』とした。原版の『子どもの適応性』の下位尺度のうち，「私の子どもは，いつも新しいおもちゃで遊び始めるまでしばらくかかる」，「私の子どもは，大きな音や強い光に過敏に反応しやすい」など刺激に対する過敏性やものに対する適応性の悪さを表す項目であった。

親自身に関わるストレスでは8因子が抽出され，累積寄与率は48.6%であった（**表2**）。第一因子は原版の下位尺度と一致し，『親役割によって生じる規制』とした。「子どもの要求を満たすために，私は思ったより自分の生活をあきらめていると思う」，「この子を産んでから，私は新しいことを始めることができない」などの項目で構成されていた。第二因子は『社会的孤立』とした。「私は孤独で，友達がいないと感じている」など，原版の下位尺度『社会的孤立』の項目に，『親の健康』の1項目が加わっていた。第三因子は原版の下位尺度と一致し，『夫との関係』とした。「子どもを産んでから，私は夫と一緒にすることが少ない」，「子どもを産んだことにより，夫との問題が思ったより多く生じている」などの項目で構成されていた。第四因子は『親としての有能さ』とした。「私は子どもの世話をしている時，有能でうまくできていると感じる」（逆採点），「私は物事をうまく扱えないと感じることが多い」など，いずれも原版の下位尺度『親としての能力についての感じ方』の項目から構成されていた。第五因子は『抑鬱・罪悪感』とした。「私はいつも，子どもが何か悪いことをすると，私のあやまちだと感じてしまう」，「子どもに対する感じ方について，罪の意識をもつことが多い」など，原版の下位尺度『親の抑鬱』の項目で構成されていた。第六因子は『退院後の気落ち』とした。「子どもを連れて退院した後の約1か月間，思っていたより悲しく，落ち込んでいることに気づいた」，「子どもを連れて退院した時，私は親としてこの子を扱えるか自信がなかった」など，原版の『親としての能力についての感じ方』，『親の抑鬱』の下位尺度のうち，退院後の気落ちを表す項目で構成されていた。第七因子は『子どもに愛着を感じにくい』とした。「子どもともっと親密で暖かい感情をもてると期待していたので，そのことが気になる」など，いずれも原版の下位尺度『子どもへの愛着』の項目であった。第八因子は『健康状態』とした。「身体的に，私は大体において調子がいい」など，いずれも原版の下位尺度『親の健康状態』の項目で構成されていた。

表2 親自身に関わるストレス項目の因子負荷量

原版番号	原版下位尺度	項目	第一因子	第二因子	第三因子	第四因子	第五因子	第六因子	第七因子	第八因子	共通性
69	P3	子どもの要求を満たすために，私は思ったより自分の生活をあきらめていると思う。	.75972	.09390	.13566	.07909	.09020	.08981	.05375	.07396	.63520
73	P3	子どもを産んでから，私はやりたいことがほとんどできないと感じている。	.74721	.23689	.14601	.14803	.00870	.04834	−.00874	.10766	.67175
72	P3	この子を産んでから，私は新しいことを始めることができない。	.68856	.24164	.12465	.09620	−.01356	.04152	−.00180	.03632	.56052
71	P3	子どもの要求に私の生活が支配されていると感じることが多い。	.68104	.08105	.12268	.06604	.15579	.14561	.14781	.05439	.56008
68	P3	私の生活のほとんどが子どものために費やされている。	.61187	−.01191	.01327	.00213	.06957	.06792	.02902	.02133	.38546
70	P3	私は親としての責任にとらわれていると感じる。	.54404	.07580	.07304	.00324	.23600	.15125	.12047	.06701	.40465
74	P3	家の中で私が一人でいられる場所を見つけることは難しい。	.47800	.13798	.13741	.20284	.13742	−.06930	.08008	.05254	.34041
93	P6	私は以前のように，人々に興味をもてない。	.12495	.70793	.13297	.04794	.12299	.08247	.13694	.06770	.58202
91	P6	私は孤独で，友達がいないと感じている。	.06933	.69701	.02896	.12522	.14294	.10351	.06373	.08246	.54915
92	P6	パーティー（友人宅の訪問，食事会など）に行く時，いつも楽しめないような予感がする。	.12893	.66613	.12169	.02529	.12137	.12537	.13313	.08434	.53108
94	P6	同じ年齢の人々から，特に私と行動を共にしたいと思われていないように感じることが多い。	.05618	.64162	.11943	.13489	.19843	.10186	.13722	.13306	.53358
100	P7	私は以前のように物事を楽しめない。	.23562	.53695	.27516	.15057	.02973	.11272	.13464	.20240	.51490
96	P6	子どもを産んでから，友人に会ったり，新しい友達をつくる機会がずっと減っている。	.22138	.49798	.13124	.15024	−.02278	.03015	−.03004	.06633	.34352
95	P6	子どもの世話について問題が生じた時，助けやアドバイスを求める人がたくさんいる。	.04340	.47024	.10426	.13097	.03328	.03076	.04633	.06309	.25921
86	P5	子どもを産んでから，私は夫と一緒にすることが少ない。	.21293	.15680	.79651	.09283	.02400	.03337	.04891	.05713	.72032
85	P5	子どもを産んだことにより，夫との問題が思ったより多く生じている。	.09661	.14123	.76714	.10507	.06608	.15254	.07468	.12262	.67707
87	P5	子どもを産んでから，私と夫は思ったより家族として一緒に過ごす時間が少ない。	.15578	.15263	.74085	.08645	.04744	.06787	.04996	.08685	.62080
84	P5	子どもを産んでから，私の夫は期待したほど援助やサポートをしてくれない。	.07978	.10654	.67149	.04415	.03887	.10683	.07217	.03221	.48973
89	P5	子どもを産んで，しゅうとや親戚との問題が増えたように思う。	.07869	.15572	.32807	.05744	.16218	.09310	.07827	.09443	.19138
57	P1	私は親として a．どんなことがおこってもうまく扱える b．ほとんどのことをかなりうまく扱える c．時々不安があるが，ほとんどのことを問題なく扱える d．物事を扱うのに少し不安がある e．物事をうまく扱えるとは思えない	.03837	.11952	.04208	.60544	.15747	.11393	.05676	.03034	.42601
30	P1	私は子どもの世話をしている時，有能でうまくできていると感じる。	.04193	.01051	.03115	.54405	.06749	.05303	−.04671	.02137	.30884
58	P1	私は親として a．非常によい親だと思う b．ふつうの親よりよい方だと思う c．ふつうの親だと思う d．親としてやや問題がある e．親としてあまりよくない	.01641	.09305	.06087	.51084	.19138	−.00055	.13463	.01394	.32854
56	P1	私は物事をうまく扱えないと感じることが多い。	.19620	.21233	.08482	.49341	.20372	.25673	.12611	.10461	.46849
54	P1	子どもに何かをさせようとする時，また，させないようにする時，私は大体うまくいっていると感じている。	.06828	.14601	.05641	.44577	.04737	.04834	.19112	.05899	.27246
53	P1	私は親であることを楽しんでいる。	.11289	.20295	.13447	.43201	−.02631	.09047	.23321	.13266	.33951
29	P1	親であることは，想像していたよりむずかしい。	.23865	.01950	.04391	.35835	.15653	.22992	.11732	.05452	.28178
78	P4	私はいつも，子どもが何か悪いことをすると，私のあやまちだと感じてしまう。	.15004	.12559	.08779	.17143	.71391	.05226	.06103	.06432	.59564
79	P4	子どもに対する感じ方について，罪の意識をもつことが多い。	.17474	.22813	.10245	.26569	.62367	.06797	.20282	.09561	.60752
77	P4	子どもがひどく暴れたりすると，自分がうまくできなかったような責任感を感じる。	.27114	.16032	.07408	.28798	.61709	.11313	.07671	.08369	.59412
75	P4	自分がどんな親かと考えると，罪悪感や申し訳なさを感じることが多い。	.18265	.19878	.10207	.43065	.47897	.08669	.17252	.06974	.54030
83	P4	子どもを連れて退院した後の約1か月間，思っていたより悲しく，落ち込んでいることに気づいた。	.08656	.15592	.17372	.08809	.09120	.78777	.05789	.07349	.70739
81	P4	子どもをつれて退院した後，思ったより悲しく，落ち込んだ気持ちになった。	.10462	.15584	.14517	.11770	.09605	.75844	.11477	.04488	.66980
28	P1	子どもを連れて退院した時，私は親としてこの子を扱えるか自信がなかった。	.13159	.09837	.07694	.26228	.00525	.43452	.08912	.02609	.29916
55	P1	子どもを連れて退院してから，私が考えていたようにはうまく子どもを世話することができず，助けを必要とする。	.12507	.07284	.08319	.39520	.04054	.39451	.13297	.10754	.37058
63	P2	子どともっと親密で暖かい感情をもてると期待していたので，そのことが気になる。	.08575	.16078	.11303	.22289	.12639	.13497	.79978	.09153	.77787
62	P2	親は子どもへの親密で暖かい感情を育てるのに時間がかかる。	.09017	.12004	.05927	.13244	.04489	.08993	.59849	.03779	.41332
64	P2	時々，私の子どもはふつうであってほしいと私に思わせるようなことをする。	.09641	.12639	.10423	.16464	.17354	.07597	.44362	.08140	.30256
101	P7	子どもを産んでから a．非常に病気がちになった b．それほど体調がよいと感じていない c．体調の変化を感じていない d．体調がよくなった	.11842	.06467	.08187	.08941	.03522	.03537	.05745	.69173	.51719
98	P7	身体的に，私は大体において調子がいい。	.03941	.17880	.08999	.07607	.04741	.06415	.05115	.67624	.51369
97	P7	この6カ月間，私はいつもより病気がちで痛みを感じることが多かった。	.11483	.22981	.14456	.07773	.13561	.07112	.08980	.65343	.55143
		固有値	9.50447	2.19183	2.00466	1.59801	1.2780	1.12005	0.93041	0.87979	
		寄与率	23.8	5.5	5.0	4.0	3.1	2.8	2.3	2.2	
		累積寄与率	23.8	29.2	34.3	38.2	41.3	44.1	46.4	48.6	

P1：親としての能力についての感じ方　P2：こどもへの愛着　P3：親役割による規制　P4：親の抑鬱
P5：配偶者との関係　P6：社会的孤立　P7：親の健康

2. 併存妥当性の検討

78項目の日本版 PSI の総点と川井ら[1]の育児不安29項目の総点との相関係数は－0.729で，有意であった（p＜0.01）。同様に，子どもの特徴に関わるストレス得点と育児不安の総点の相関係数は－0.536（p＜0.01），親自身に関わるストレス得点と育児不安の総点の相関係数は－0.764（p＜0.01）であった。また，日本版 PSI の親自身に関わるストレスの下位尺度と育児不安の総点の相関係数は－0.419～－0.647の範囲で，いずれも有意であった（p＜0.01）。

3. 内的整合性・安定性の検討

78項目の日本版 PSI のα係数は，全項目では0.94，子どもの特徴に関わるストレス0.90，親自身に関わるストレス0.92であった。下位尺度のα係数は，0.64から0.86の範囲で，「刺激に過敏に反応する／ものに慣れにくい」が最も低かった（**表3**）。また，平成9年に40例で行った検査・再検査法の結果，日本版 PSI の1回目と2回目の相関係数は総点0.813，子どもの特徴に関わるストレス得点0.835，親自身に関わるストレス得点0.819で，いずれも有意であった（p＜0.01）。さらに，日本版 PSI の下位尺度の1回目と2回目の相関係数は0.515～0.877の範囲で，いずれも有意であった（p＜0.01）。

表3 日本版 PSI の内的整合性

日本版 PSI	Cronbach's alpha
総点	0.94
子どもの特徴に関わるストレス得点	0.90
親を喜ばせる反応が少ない	0.82
子どもの機嫌の悪さ	0.77
子どもが期待通りにいかない	0.78
子どもの気が散りやすい／多動	0.73
親につきまとう／人に慣れにくい	0.75
子どもに問題を感じること	0.72
刺激に過敏に反応する／ものに慣れにくい	0.64
親自身に関わるストレス得点	0.92
親役割によって生じる規制	0.86
社会的孤立	0.83
夫との関係	0.83
親としての有能さ	0.73
抑鬱・罪悪感	0.83
退院後の気落ち	0.76
子どもに愛着を感じにくい	0.71
健康状態	0.75

Ⅳ. 考　察

日本版 PSI の構成概念妥当性を検討した結果，親自身に関わるストレスは，原版の因子構造と極めて近い内容を示したが，子どもの特徴に関わるストレスには，原版と異なるいくつかの特徴が見出された。特に，第三因子の『子どもが期待通りにいかない』，第六因子の『子どもに問題を感じること』は，子どもの能力や行動が母親の期待どおりではないと感じるストレスや，健康問題に起因するストレスを表す新たな因子であった。少子化が進む日本では，母親が子どもによせる期待がますます増大する傾向にあると考えられ，現実とのずれがストレスの要因となっていると考えられる。先行研究[10]では病児の母親は健康児の母親と比較して，子どもに対する期待と現実のずれから生じるストレスがより強いことが報告されていることから，今後，健康上の問題をもつ子どもの母親においても重要な意味を持つ下位尺度であると言える。第五因子の『親につきまとう／人に慣れにくい』は，原版の『子どもの適応性』や『子どもが困らせる度合い』の下位尺度から抽出され，第七因子のものに対する慣れにくさとは区別して捉えられていた。核家族化の中で母子関係は密着する傾向にあることから，子どもが新しい環境に直面した時の親への固執性がストレス因子となっていたと思われる。原版の下位尺度『親を喜ばせる度合い』と，子どもの肯定的な反応の少なさに着目した他の3項目が第一因子『親を喜ばせる反応が少ない』を構成していたことは，米国における調査結果[9]と類似していた。子どもの笑顔など肯定的な反応が少ないことは，母親の自信の喪失や育児に対する意欲の減退につながる重要なストレス因子であると考えられる。親自身に関わるストレスでは，第六因子『退院後の気落ち』が新たに抽出された。出産後間もない時期の母親には，特有のストレスが生じていることを裏付ける結果であったと言える。

Solis ML ら[11]は，PSI を構成する3因子として，子どもの特徴に関わるストレス，親自身に

関わるストレスと，新たに親子相互作用に関わるストレスを見出している。この新たな因子は，本調査で抽出された下位尺度の『親を喜ばせる反応が少ない』，『子どもが期待通りにいかない』，『子どもに愛着を感じにくい』，『親としての有能さ』とほぼ一致する。いずれも子どもや親役割に対する葛藤や否定的な感情を表す項目であり，親子関係を反映する重要な下位尺度と考えられる。

本研究では因子分析および内容妥当性の検討から，日本版PSIを78項目，15下位尺度の質問紙として用いることが妥当であると判断した。日本語訳については原文にできるだけ忠実で意味が正しく，しかもわかりやすい表現を採用し，プレテストにより修正を行ったが，なお，工夫を要する箇所もあると思われる。削除した項目の多くは因子負荷量が低く，米国の先行研究[9]においても同様の結果を示したことから，育児ストレスを十分に反映しない内容であったと考えられる。78項目の日本版PSIは，原版[9]と比較してより高い累積寄与率を示すことからも，その妥当性が示唆される。また，101項目の質問紙が回答者にとって負担が大きいことは，本調査の回収率が必ずしも高くなかった点からも推察される。従って，78項目の日本版PSIは，母親の育児ストレスをより簡便に査定する質問紙として有効であると考える。さらに，質問紙全体，子どもの特徴に関わるストレス，親自身に関わるストレスのいずれにおいても高い内的整合性および安定性が確認されたと言える。また，川井[1]らによる親の育児不安の質問紙との関連性から，日本版PSIの併存妥当性を確認したところ，親自身に関するストレスを中心に高い相関を示した。しかし中には，育児不安の質問紙と必ずしも高い相関を示さない下位尺度が認められ，本質問紙がより広い概念で構成されていることが裏付けられた。

V. おわりに

本研究は，日本の乳幼児の母親の育児ストレスを測定する日本版PSIの信頼性および妥当性を検討した。今後は，母親や子どもの年齢および家族構成と，日本版PSIの関連性から，現代の母親の育児ストレスの要因を明らかにすること，さらに，様々な健康上の問題をもつ子どもの母親の育児ストレスの特徴と要因を明らかにし，臨床的活用を図ることなどが課題である。また，これらの研究を継続しながら，質問紙の有効性についてもさらに検討を重ねていきたい。

本研究の一部は第15回日本看護科学学会で発表した。

引用文献

1) 川井尚，庄司順一，千賀悠子，他．育児不安に関する基礎的検討．日本総合愛育研究所紀要 1994；30：27-39.
2) 川井尚，庄司順一，千賀悠子，他．育児不安に関する臨床的研究―幼児の母親を対象に―．日本総合愛育研究所紀要 1995；31：27-42.
3) 松澤素子，佛坂千晶，横山真生，他．育児ストレスと養育態度の関連調査について．日本公衛誌 1997；44(10)：817.
4) Abidin RR. Parenting stress index manual. 1st ed Pediatric Psychology Press 1983.
5) Younger BJ. A model of parenting stress. Research in Nursing & Health 1991；14：197-204.
6) Gelfand DM, Teti DM, Radin Fox CE. Sources of parenting stress for depressed and nondepressed mothers. J Clinical Child Psych 1992；21(3)：262-272.
7) Quittner AL, DiGirolamo AM. Parenting response to cystic fibrosis：A contextual analysis of the diagnosis phase. J Pediatric Psych 1992；17(6)：683-704.
8) Carson DK, Schauer R. Mothers of children with asthma：Perceptions of parenting stress and the mother-child relationship. Psychological Reports 1992；71：1139-1148.
9) Abidin RR. Parenting stress index manual. third ed, Pediatric Psychology Press 1990.
10) 丸光恵，兼松百合子，中村美保，工藤美子，武田淳子．慢性疾患をもつ母親の育児ストレスの特徴と関連要因―健康児の母親との比較から―．千葉大学看護学部紀要 1997；19：45-51.
11) Solis ML. The Spanish version parenting stress index：A psychometric study. J Clinical Child Psych 1991；20(4)：372-378.